うたごよみ

曽於文藝

「題字」
末吉文化協会会員
瀬戸口　淳　民氏

俳　句

千草俳句会

御社の庇に雨の梅探る
田之上　千代子

初詣願いの諸々繰り返し
児玉　タエ子

神木に身の引きしまる寒詣
千田　茂子

大隅俳句会

白梅の幽かに野山にぎわせり
岩重　みどり

春近し芽吹くものあり足元に
川崎　綾子

差し交わす瑞枝を揺らす春時雨
河南　ミホ

豆まき風景（あおき幼児学園）

短　歌

末吉短歌会

落日は稜線に消ゆあの日より
西方浄土を信じて生くる
長倉　佳津子

供花の水の僅かに温む昼の墓地
亡母との逢瀬しばし愉しむ
田之上　絹子

からつ風に煽られ打たれ群れがらす
木の葉のやうに空にふかるる
泊　康

大隅短歌会

そよと吹く秋風にのりしもくせいの
ゆたかな香りに心和らぐ
本田　澄江

悲しみのしるき歌こそ胸をうつ
歌とはかくもむごきものかな
西山美代子

「寒いですね」「寒くなったね」と畦ごし
の二人の背を夕焼けつつむ
川辺　玉枝

財部短歌会

捨てらるる運命の瑞布は甦る
優しくみごとな布絵となりて
杉村　リカ

八十歳色つや若し沖縄の
気概があなたを育ててくれぬ
祝迫　道雄

小鳥達今しばし待てピラカンサ
庭の花なのだ冬のわが友
橋口　貞男

木枯らしに暮れ初む木の間灯ぞともる
子等呼ぶ声すそは彼の女か
山城　忠

畑の菜ながめ食事の献立を
立つる日々なり夫あるしあわせ
瀬戸口　芳子

横たわる骸をよけて運転す
可哀相にと猫か狸か
川俣　若

襲ひくるこの神経痛をだましつつ
あゆむ姿に老いの身ぞしる
井上　澄子

信念を捨てし政治家が政党の
離合に走る政治屋となり
児玉　次雄

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

寒み晩な　黒ぢょけ湯豆腐く
連のませっ
森山　厚香

寒みさみち　団子ん如っ着っ
鈍り散歩
古川　一幹

寒み日和い　傍も冷え切い
娘んミニ
鈴木　一泉

寒みち言っ　炬燵と茶飲ん
又肥満
桐野　奈世

大隅薩摩狂句会

歳しゅ聞たや　幾こじゃいけち
指ぶ積っ
山田　竜生

幾こなら　買つもいじゃいか
きし値切っ
西山　美代子

嬉し事　新春と嫁女が
連のっ来っ
小倉りんりん

口だけん　挨拶じゃっどん
嬉しゅなっ
福元　多喜子